

名所

忿ル氣強故ニ、忿リ深キモノハ名利ヲ好ムモノ也、イカニモ隨テ是ヲ可服也、口傳、

〔日本鹿子^五〕同豆^〇伊國名所之部類

三島 明神の御座なり、御池有水涌出る、伊豆の府也、三島の宿といふなり、明神の草創のこと、くはしく神社の所に見えたり、

伊豆の高根 箱根より南の山也、海にさし出たるなり、山中にはしり湯あり、鎌倉右大臣の歌に、千早ぶる伊豆のお山の玉椿八百万代も色はかはらじ

宮根山 三島より三里餘行て山中なり、矢たての杉とてあり、山のかしらに水海あり、湖水北南へ五十町、東西はちかし、東の汀に權現の社だんあり、西むきなり、湖の南の汀に蘆の宿とて民家あり、ひよりよきときは、此水うみに富士のかげうつりて、眺望無雙の景地なり、ふじは是より西に見えたり、

宮根山うす紫のつぼすみれ二しほ三しほたれかそめけん

阿妻の小野 二葉山 井關の山 志柄城の山 これのみなうち續て近所にある名所なり、此外三島より二里餘右のかたに、蛭が小島赤澤山など、云所あり、名所にはあらず、

右の外、ゆるぎの橋、こく井の森など、云名所、當國の内なりといへども、いまだ所をえらす、

雜載

〔延喜式^二兵部^一十八〕諸國健兒^〇中 伊豆國卅人^〇中

諸國器仗^〇中 伊豆國^甲張征^一領^横冊^刀具^三胡^口羅^弓冊^具

〔百練抄^{十六}後深草〕寶治元年正月十二日丙寅、此間風聞云、伊豆國長十二町、弘八町、自十餘町行去、其跡如湖水云々、

〔清解眼抄^凶事〕配流公卿殿上人事^〇中

流移國々^〇中 伊豆國^七里^百七 右六ヶ國遠流